

## 山形大医学部をめざす人へ

2024.3.16(土)

### 山形大医学部入試問題の特徴

山形大学の入試問題は、大問6題で構成されており、各学部によって、解くべき問題が指定されています。例えば…

【入試情報】山形大学の入試問題(2022年度・数学)は、第1問から第6問まであり、学部に応じて、次のように解答することが求められています。

|         |              |        |
|---------|--------------|--------|
| 人文社会科学部 | 第1, 2, 3問    | (90分)  |
| 理学部     | 第1, 3, 4, 5問 | (120分) |
| 医学部     | 第1, 3, 5, 6問 | (120分) |
| 農学部     | 第1, 2, 3, 4問 | (120分) |

第1問と第3問が全学部共通の問題で、

医学部は共通問題と第5問、第6問の4題が必答で、試験時間は120分となります。

合格最低点は、72～79%程度の正答率といわれています。

全小問は5題/問×4問=20題ですから、4題だけまちがえても合格できる、という計算になります。全4問のうち、(5)の問題がかなり難しいので、それをすべて落としても合格できることになります。ただ、第1問と第3問は数ⅡBまでの範囲なので、この2問の(5)問題を解けるようにしておけば、確実に合格圏内に入れます。(数学についてだけの話ですが…)

### 山形大医学部入試問題の特徴とその対策

2022年度の第1問、第3問、第5問、第6問の出題内容と解答を分析したデータを用意しています。(Essay\_663～Essay\_689)

出題内容の非常に特徴的なことは、「前問の結果を使って次の問題に答えなければならない」ということです。

一面では、解き方を”誘導”してくれているから問題としては易しいといえますが、他面では、例えば、(1)や(2)が解けないと、(3)～(5)の問題は確実に解けませんので、その大問は0点になってしまう、という恐ろしさもあります。

5つ問題を落とすと数学としては合格できません。

### 入試問題の”基礎”とその学び方

ここから、山形大医学部受験の根源的な受験対策の学習法が導きだせます。

つまり、合格したいならば、「”基礎”問題は100%正解できないといけない。」ということです。なんとなくわかっているとか、ときどき間違える問題がある、では合格できないのです。

次の課題は、では、入試問題の”基礎”とは何だろう、ということになります。

そして、それがわかったとき、次の課題は、その”基礎”をどのようにして勉強したらいいのだろうか、ということになります。

入試問題の”基礎”とは、その入試問題を解くときに使う知識（道具）のことです。だから、基礎一般など存在しませんし、だれにも共通な基礎なども存在しません。どんな入試問題を解くかやその人の学力の到達度によって変わります。

2022年度の入試問題を解くときの道具として使う知識については、全問題について、”基礎”となる教材(数専ゼミの山形大医学部受験指導で使う実物教材)を紹介しております。

## 基礎として何を学ぶべきか

基礎を学習するときには

その人の”苦手”から始めます。（それが山形大医学部に合格するために不要である場合には、数専ゼミがその旨アドバイスをします。）

2024年度に指導要領が変更になったので出題内容も流動的になっています。だから、出題傾向などにはこだわらず、自分の苦手を選びながら基礎を学習していった方がいいと思えます。

学習の範囲やレベルは、数専ゼミが指導します。自分ではなかなか確定できません。

基礎学習で使う教材なども自分で選定するのはかなり困難です。

数専ゼミが山形大医学部入試問題対応の基礎学習教材を提供します。

（数専ゼミでは、教材はすべて”無料”です。）

学習目標がはっきりしない問題集などを使って細切れに学習しても山形大医学部に合格するための力などはつきません。

山形大医学部に合格するためには、山形大医学部に合格するための問題集を学習しなければなりません。

## 基礎をどのように学ぶべきか

入試の日は決まっています。今から逆算すれば、入試勉強に充てられる時間も決まっています。だから、基礎の勉強は、確実に進めていかなければなりません。

基礎をもっていないと山形大医学部の入試問題は絶対に解けないのですから。（このことは、入試問題を解いてみればだれでもわかります。）

要は、”基礎”を学習するための特定時間を生活の中に具体的に設定しておくことです。

ただ自分の学習計画の中に組み込むだけでは、往々にして学校の課題が優先し、基礎学習は後回しになってしまうこと多くの人の実例です。それでは、基礎が不安定なまま、入試に向かわなければならないことになります。前に述べたことの繰り返しになりますが、基礎部分の(1)、(2)を落とすと0点です。こうなると確実に合格できません。

基礎学習を確実に確保する最良の方法は、塾で学ぶことです。

塾で習うと、毎週確実に、決まった時間に学習できます。そして、そこで塾の指導を受けて基礎を学習していけば、入試までの予定通りに基礎を完成することができます。

こうすることで、日々の家での学習は、学校の定期テストや課題に集中することができます。

## 中学生や高1生の山形大医学部入試対策

中学生や高1生であらかじめ山形大医学部を受験することがわかっている人は、早めに受験対策をすることをお勧めします。

たとえば、中2までで、中学生の勉強を終えて、高2までで高校の勉強を終えて、高3では、過去問や模試などをゆっくりとやりながら、他の教科に力を集中することができます。

数学の勉強には時間がかかります。だから、これは早めに終わっておけば、高3時には、他の教科に時間を他の教科の勉強に回すことができるようになるということです。

合格するための総合的な戦略です。（数学だけ高い点数をとっても合格できません。合格は共通テスト900点、2次試験700点の計1600点の総合点で決まります。2次試験の数学は200点満点です。およそ、150点が合格最低ラインと考えておきましょう。）

### 体験学習からどうぞ…

独立な試行の確率のうち、反復試行の確率、通過点の確率などを学習してみませんか。

その後で、山形大医学部入試問題の2022年度第1問を解いてみましょう。

（数学Aの範囲の問題ですので、確率を終えている人ならだれでも解くことができます。）

基礎と入試問題との関係を実感として理解することができます。基礎の大切さを実感できます。

体験学習は無料です。

お電話で予約下さい。日程を調節します。

## 入試問題の“基礎”を鍛える数学教室

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: (023)633-1086 / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)